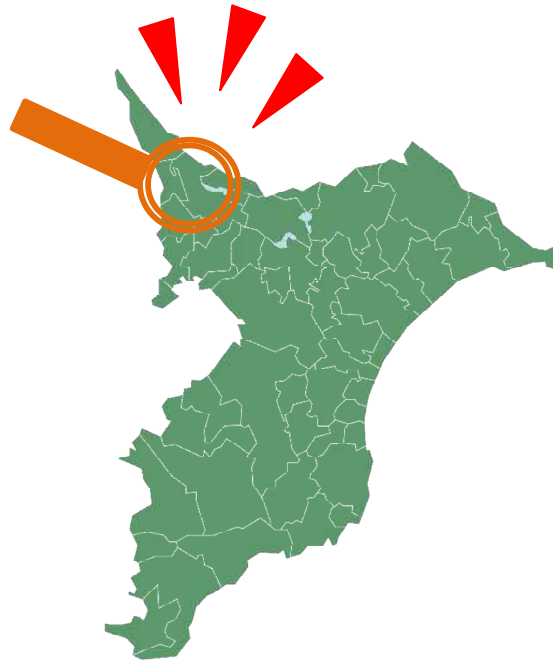


2025・4

柏の景気情報

令和7（2025）年4月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

T E L : 04-7162-3305

F A X : 04-7162-3323

U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E - m a i l : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報 (令和7年4月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

回答期間：令和7年4月21日～令和7年5月7日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数70

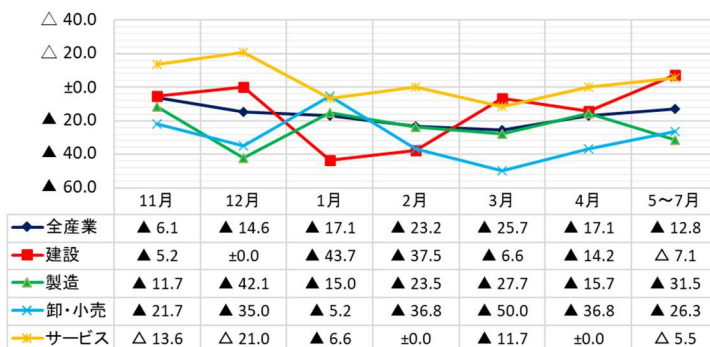
各業界、とまらぬコスト増と採用難で厳しい状況。売上の一部回復が見られるも全体の採算は悪化。

4月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲17.1（前月水準▲25.7）となりマイナス幅が8.6ポイント縮小した。

各業界、物価高や人手不足への課題が山積。

建設業、製造業、卸・小売業では人材確保が思うように進まず人手不足が継続。物価高に加え国際情勢の不安定さに将来の懸念が広がる。サービス業では、価格転嫁の困難さ、大手の進出による競争激化などにより収益確保が厳しい状況。

柏の景気情報・産業別業況DI



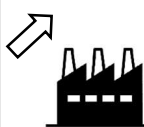
★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



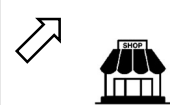
建設業

「全体的に価格を抑えた要望が増えた」（一般土木建築工事）「光熱費等の高騰傾向は続いている大型インフラ事業への対応や防災関連事業により、売上高は好転傾向にあるが、物価上昇傾向や人材不足の潜在的なマイナス要因が国際情勢の不安定により、今後の不透明感は広がっていることが懸念される」（地質調査）「色々なタイプの働き方を受け入れ、豊職人さんを一人でも多く育てたい」（豊工事請負・豊製造販売）



製造業

「物価高、人手不足を踏まえてできる限りの賃上げを行った。協力会社も同じ傾向で、加工費が値上げ基調にある。半年前から人材募集を進めているが、そもそもの人手不足と他社との競争が厳しく、採用に至らない。取扱製品も海外の競合他社の品質が向上し、かつ低コストであるため、差別化できる高付加価値製品の提案ができるように取り組みたい」（その他の化学工）「売上高は右肩傾向にあるが、人件費、原材料や水道光熱費も右肩上がり増なので、利益率は低下。旧建屋の構造的（地震対応）問題があり、建替えが必須となる」（その他の鉄鋼）「世界経済の混乱、経営の在り方変革期なのかもしれないが、現在維持していくだけで精一杯」（印刷）



卸・小売

「人手不足のため、営業時間の短縮・定休日の導入等の店舗が増加」（その他各種商品小売）「昨年春を上回る値上り要請の中、単価と客数は上昇しているが、買い控えが更になり売上は頭打ち。食品や紙、消耗品、薬は堅調であるが、衣類と住居余暇の落ち込みが激しい。マスコミでは気温上昇を伝えているが、桜の頃に思ったほど気温が上がらずシーズン品の動きが遅れている。冬物の処分は順調に進み季節変わりの売場展開を早めてみても動きは鈍い。今後はネットスーパーを強化して売上をカバーする」（大型小売店）



サービス業

「設備の更新や修繕が必要だが、数年前とは比較にならない見積もり価格となっている。猶更のこと急いで実施したいが価格にどこまで転嫁できるか不安。設備の更新に対しても補助金等の支援が欲しいところ」（ゴルフ練習場）「お客様からの引き合いは少しずつですが、増えている。相変わらず建築費や資材の値上がりは続いている。金利も上がってきているので、不動産の買い客も様子見で契約には結びつかない」（不動産管理）「都内大手学習塾が柏市内に複数店舗出店したため、新年度に予定していた授業料等の値上げができなかった。2年前前から続いている人件費、教材費、光熱費分などが価格転嫁できなかったのはかなり痛い」（学習塾）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI-LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲17.1に対し、「CCI-LOBO」が▲18.5で、柏のほうがマイナス幅が1.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業・製造業・卸小売業である。

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 17.1	 ▲ 14.2	 ▲ 15.7	 ▲ 36.8	 ± 0.0
CCI-LOBO	 ▲ 18.5	 ▲ 17.7	 ▲ 23.0	 ▲ 23.5	 ▲ 8.6
売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 4.2	 ▲ 7.1	 ▲ 10.5	 ▲ 5.2	 5.5
CCI-LOBO	 ▲ 2.1	 ▲ 10.1	 ▲ 9.4	 ▲ 0.5	 9.9
採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 22.8	 ▲ 21.4	 ▲ 21.0	 ▲ 42.1	 ▲ 5.5
CCI-LOBO	 ▲ 17.1	 ▲ 16.8	 ▲ 21.4	 ▲ 18.2	 ▲ 11.9
仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 61.4	 ▲ 57.1	 ▲ 63.1	 ▲ 68.4	 ▲ 55.5
CCI-LOBO	 ▲ 69.1	 ▲ 72.0	 ▲ 67.0	 ▲ 69.7	 ▲ 68.7
従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 12.8	 28.5	 ± 0.0	 ± 0.0	 27.7
CCI-LOBO	 22.1	 34.5	 12.2	 17.7	 30.7
資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 12.8	 ▲ 21.4	 ▲ 26.3	 5.2	 ▲ 11.1
CCI-LOBO	 ▲ 11.7	 ▲ 7.0	 ▲ 17.1	 ▲ 13.6	 ▲ 8.4

CCI-LOBO

商工会議所早期景気観測(4月速報)

調査期間：2025年4月14日～18日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、消費マインド低迷等が足かせでほぼ横ばい

先行きは、トランプ関税への懸念から慎重な見方

4月の全産業合計の業況DIは、▲18.5と前月比からプラス0.7ポイント。サービス業は歓迎会需要や観光需要により、ハレの日関係の利用が増えた飲食店が押し上げ、改善した。製造業は、サービス業からの引き合い増加で、飲食料品関係を中心に改善した。小売業では新年度需要はあるものの、消費マインドの低迷が足かせとなり、ほぼ横ばいとなった。建設業は資材価格や労務費の高騰で悪化し、卸売業は建設業からの引き合い減少やガソリン価格の高騰で悪化した。

たコストが増加している。今後への不安感から消費マインドが低迷しており、中小企業の業況はほぼ横ばいにとどまった。

先行き見通しDIは、▲19.8と今月比からマイナス1.3ポイント

好調に推移するインバウンド需要のほか、大型連休への期待もある一方、今年は連休の日並びが悪いことから例年ほどの恩恵は受けられないのではないかとという声も聞かれた。コスト増や人手不足といった経営課題も山積している。

また、トランプ関税が今後の日本経済に与える影響を懸念する声が多数聞かれ、今後の動向の不透明さから先行きは慎重な見方となっている。

【建設業】

「国や地方自治体の予算が資材価格や労務費の高騰に追いついておらず、公共工事において適正な価格での受注ができない。また、人手

不足で受注機会を逃してしまいうケースもある」（一般工事業）

「トランプ関税で先行きが不透明になっており、設備投資需要が減少しないか不安である」（土木工事業）

【製造業】

「市内に観光客が多く、ここ最近はお土産となる製品の売れ行きがかつてないほど好調である」（野菜漬物製造業）

「当社は直接の輸出は行っていないが、取引先の自動車メーカーがトランプ関税の影響を受けた場合には、関税引き上げ分の負担を求められることが懸念される」（自動車・附属品製造業）

【卸売業】

「資材価格の高騰が続いていることで引き合いが少なく、売上が悪化している。当間の間は状況が変わることはないと考えられ、厳しい経営環境に置かれると思う」（建築材料卸売業）

「コメ価格の大幅な上昇で買い控えが起こり、売上が減少し続けている」（食料・飲料卸売業）

【小売業】

「新年度の挨拶の際に渡すことを目的とした贈答品の購入が多い」（商店街）

「4月から多くの品目で値上げがされたという連日の報道に加え、トランプ関税による今後への不安感から、消費マインドが低迷しているように感じる」（総合スーパー）

【サービス業】

「コスト増が継続しているため価格協議を行いたい、2024年問題に対応するための運賃引き上げを依頼してからまだ日が浅く、価格協議の実施を躊躇してしまっている」（運送業）

「足元ではインバウンドの来店が増加しているほか、歓送迎会をはじめとした大人数での宴会の開催も多い」（飲食店）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

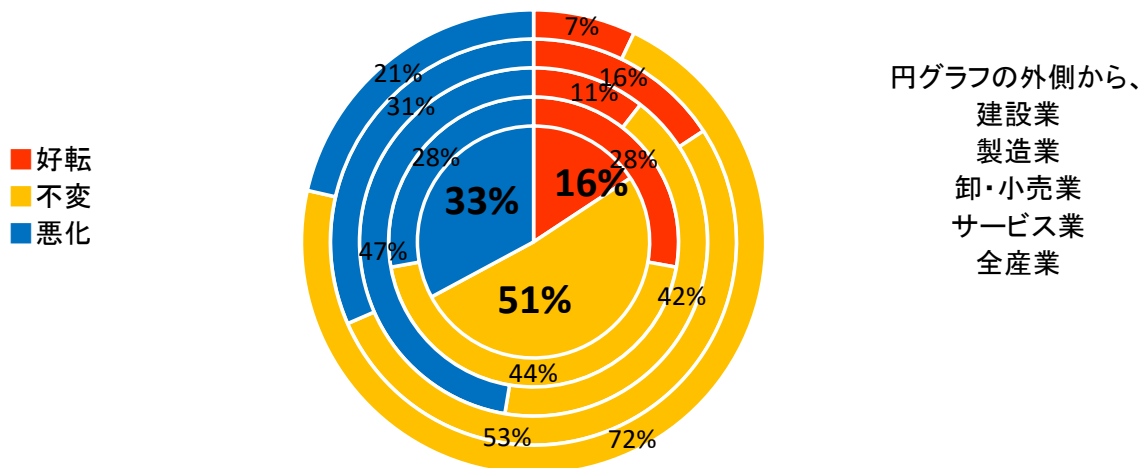
	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
11月	▲16.3	▲12.6	▲20.4	▲19.0	▲23.2	▲8.5
12月	▲14.4	▲11.3	▲21.4	▲17.5	▲20.2	▲3.4
1月	▲15.4	▲10.6	▲20.7	▲17.2	▲19.7	▲9.4
2月	▲20.5	▲16.7	▲25.0	▲19.5	▲28.5	▲130
3月	▲19.2	▲15.6	▲24.7	▲17.6	▲23.1	▲13.9
4月	▲18.5	▲17.7	▲23.0	▲23.1	▲23.5	▲23.5
見通し	▲19.8	▲19.8	▲21.4	▲24.4	▲28.0	▲9.9

令和7年（2025年）4月の動向

【業況について】

- 4月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲17.1（前月水準▲25.7）となり、マイナス幅が8.6ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月（5月から7月）の先行き見通しについては、全産業では、▲12.8（前月水準▲13.6）となり、マイナス幅が0.8ポイント縮小した。

前年同月と比較した今月の業況について

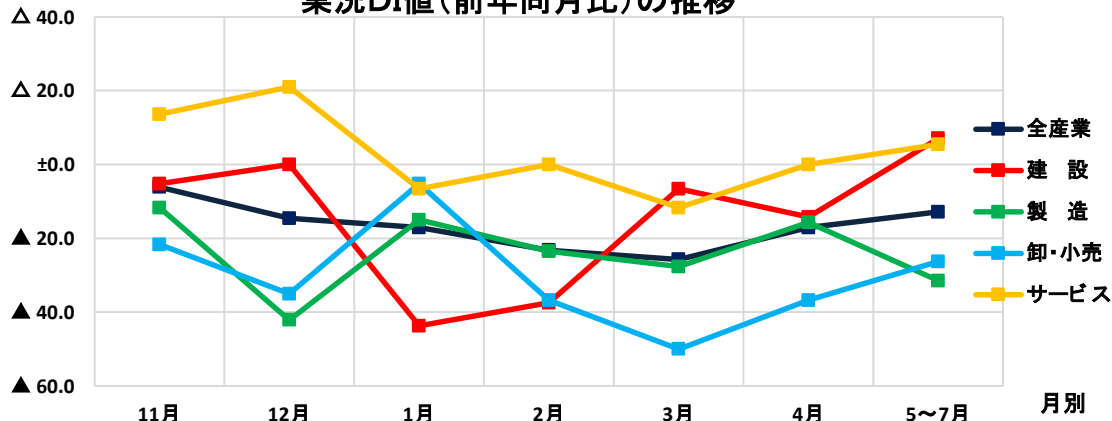


業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

	令和6年		令和7年				先行き見通し	
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5～7月	(4～6月)
全産業	▲6.1	▲14.6	▲17.1	▲23.2	▲25.7	▲17.1	▲12.8	(▲13.6)
建設	▲5.2	±0.0	▲43.7	▲37.5	▲6.6	▲14.2	△7.1	(▲12.5)
製造	▲11.7	▲42.1	▲15.0	▲23.5	▲27.7	▲15.7	▲31.5	(▲16.6)
卸・小売	▲21.7	▲35.0	▲5.2	▲36.8	▲50.0	▲36.8	▲26.3	(▲31.2)
サービス	△13.6	△21.0	▲6.6	±0.0	▲11.7	±0.0	△5.5	(▲5.8)

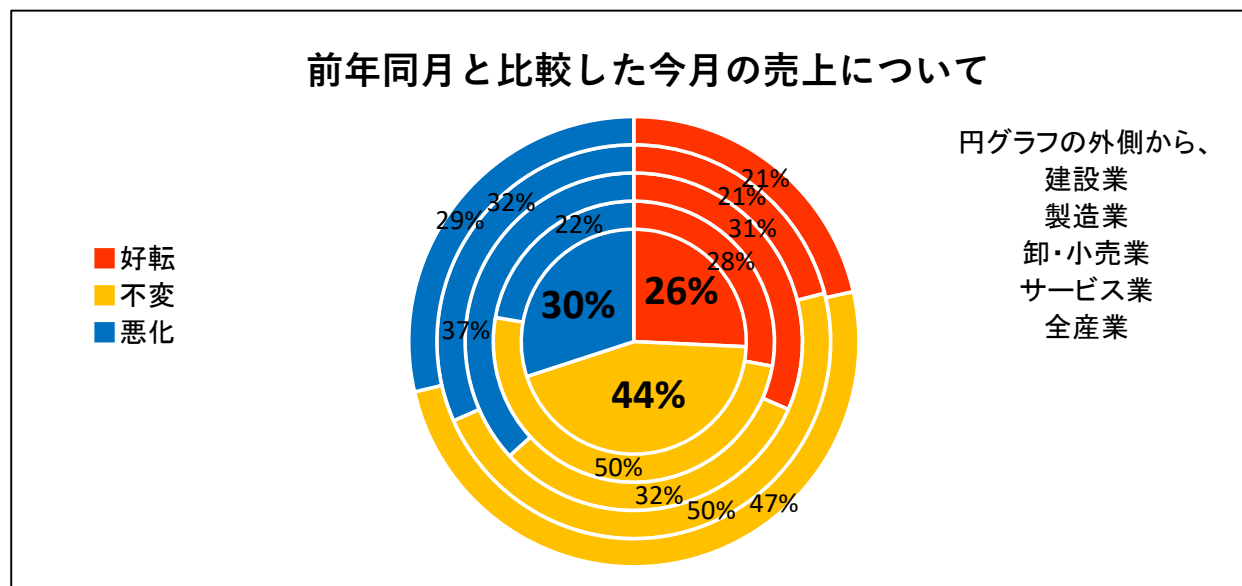
DI値

業況DI値(前年同月比)の推移



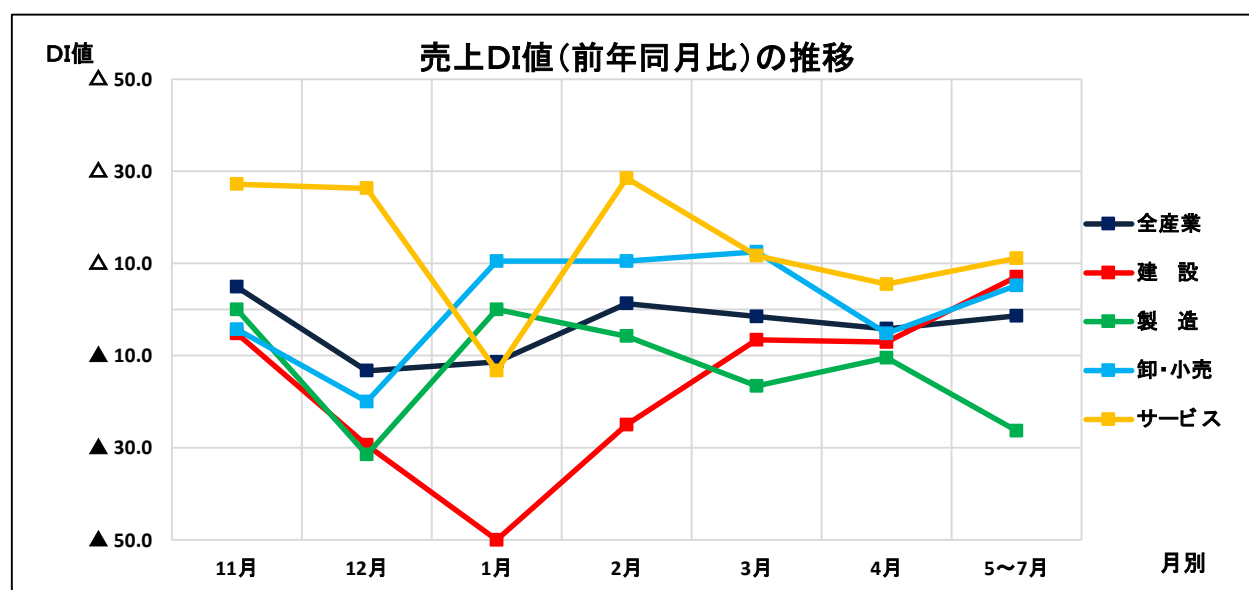
【売上について】

- 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4.2(前月水準▲1.5)となり、マイナス幅2.7ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1.4(前月水準△6.0)となり、プラス幅が7.4ポイント縮小した。



売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

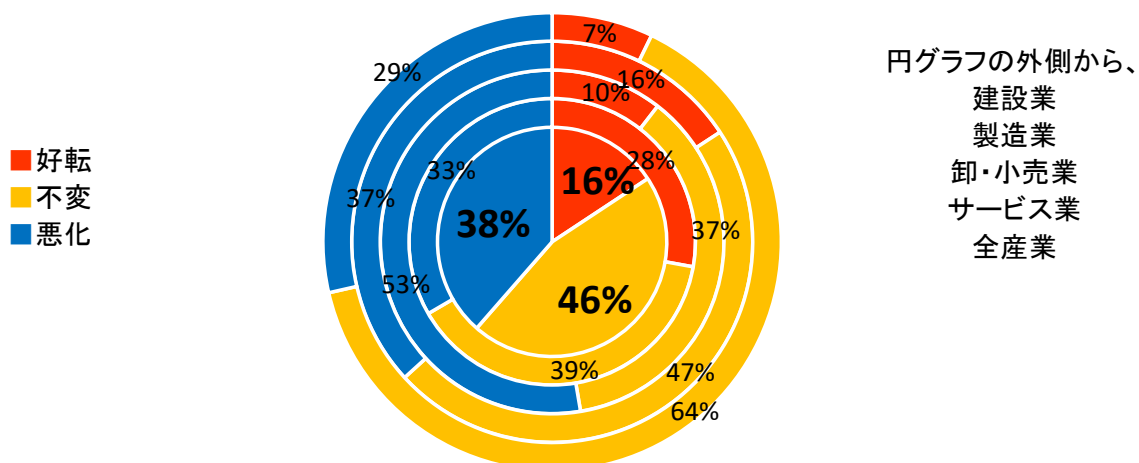
	令和6年 11月	12月	令和7年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月 (4~6月)
全産業	△4.9	▲13.3	▲11.4	△1.3	▲1.5	▲4.2	▲1.4 (△6.0)
建設	▲5.2	▲29.4	▲50.0	▲25.0	▲6.6	▲7.1	△7.1 (△20.0)
製造	±0.0	▲31.5	±0.0	▲5.8	▲16.6	▲10.5	▲26.3 (△11.1)
卸・小売	▲4.3	▲20.0	△10.5	△10.5	△12.5	▲5.2	△5.2 (△6.2)
サービス	△27.2	△26.3	▲13.3	△28.5	△11.7	△5.5	△11.1 (△11.7)



【採算について】

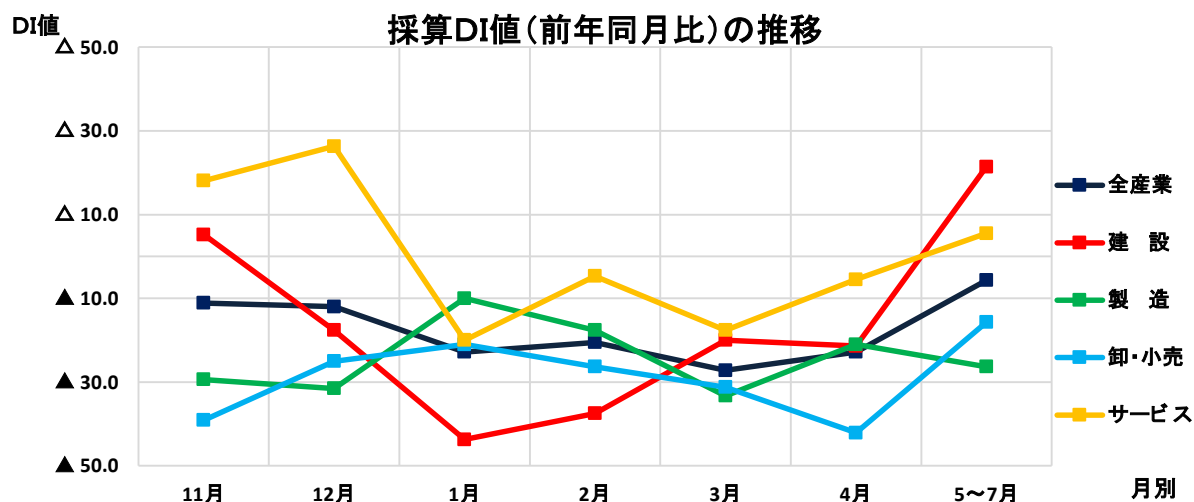
- 4月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.8(前月水準▲27.2)となり、マイナス幅が4.4ポイント縮小した。
- 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲5.7(前月水準▲12.1)であり、マイナス幅が6.4ポイント縮小する見通しである。

前年同月と比較した今月の採算について



採算D I値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

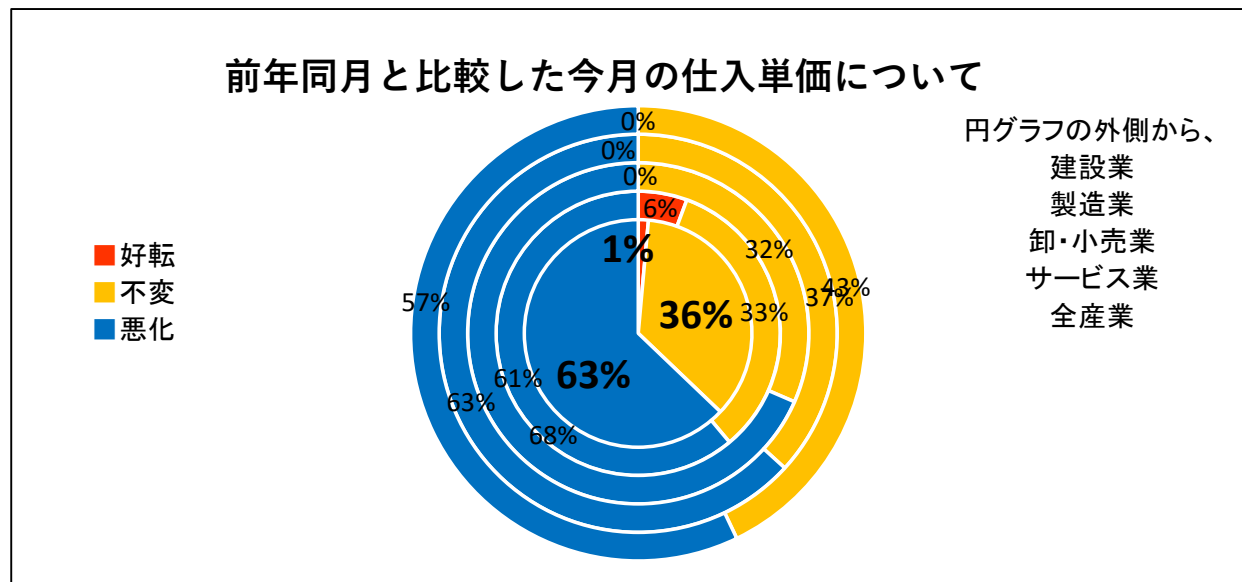
	令和6年		令和7年				先行き見通し
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5~7月 (4~6月)
全産業	▲11.1	▲12.0	▲22.8	▲20.5	▲27.2	▲22.8	▲5.7 (▲12.1)
建設	△5.2	▲17.6	▲43.7	▲37.5	▲20.0	▲21.4	△21.4 (△6.6)
製造	▲29.4	▲31.5	▲10.0	▲17.6	▲33.3	▲21.0	▲26.3 (▲11.1)
卸・小売	▲39.1	▲25.0	▲21.0	▲26.3	▲31.2	▲42.1	▲15.7 (▲43.7)
サービス	△18.1	△26.3	▲20.0	▲4.7	▲17.6	▲5.5	△5.5 (△5.8)



【仕入単価について】

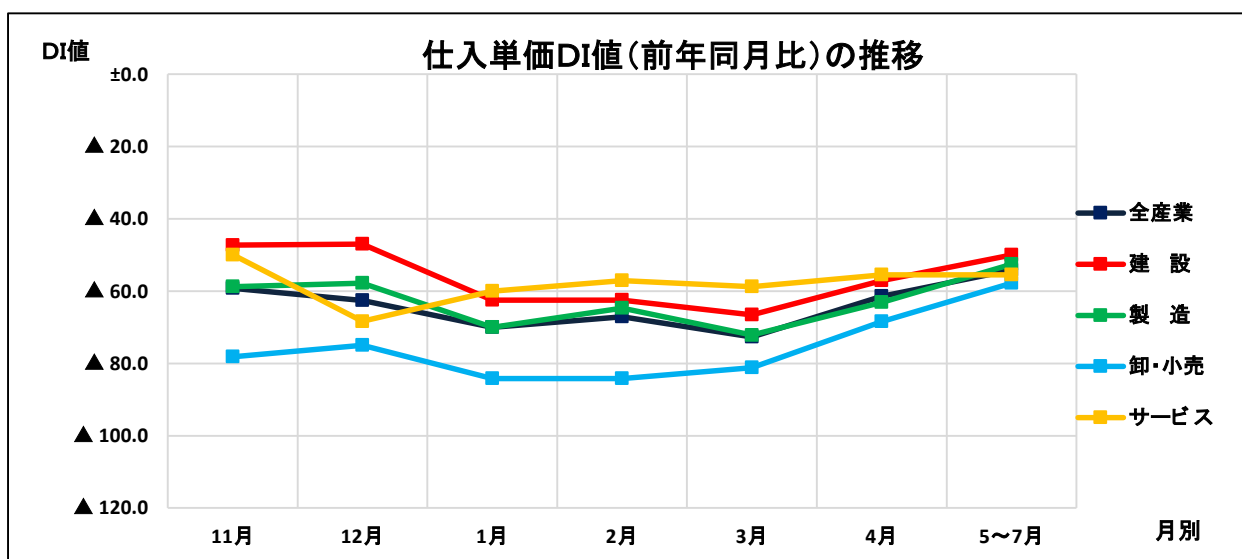
○ 4月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲61.4（前月水準▲72.7）となり、マイナス幅が11.3ポイント縮小した。

○ 向こう3ヶ月（5月から7月）の先行き見通しについては、全産業では、▲54.2（前月水準▲60.6）となり、マイナス幅が6.4ポイント縮小する見通しである。



仕入単価D I値（前年同月比）の推移 ※DI=「下落」の回答割合－「上昇」の回答割合

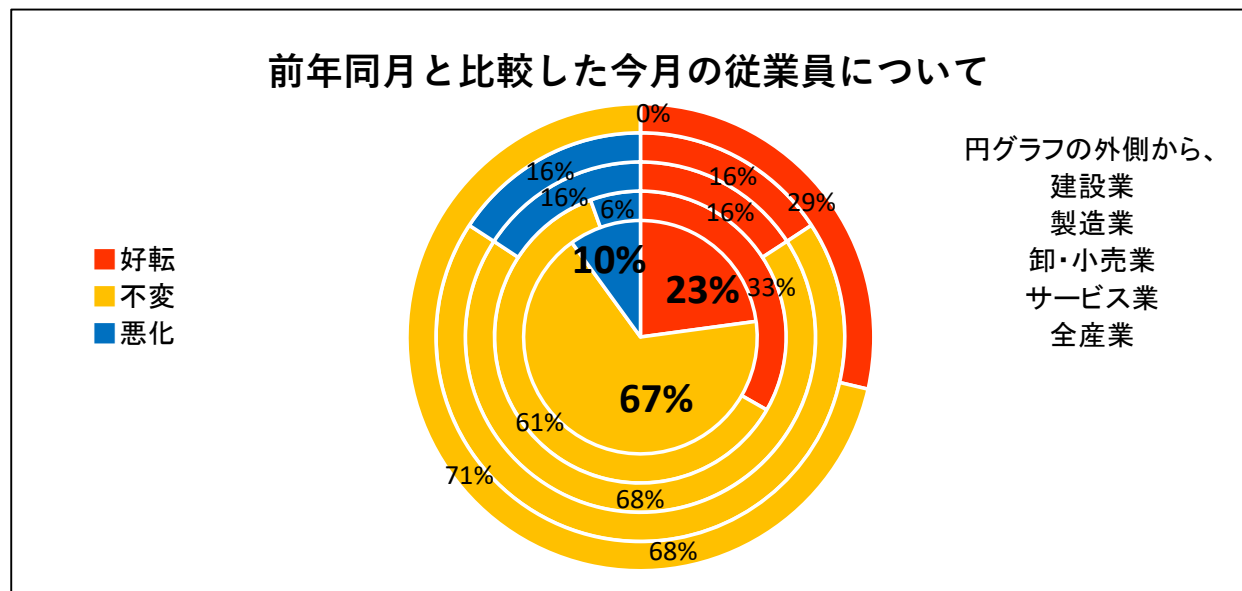
	令和6年 11月	12月	令和7年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月 (4～6月)
全産業	▲59.2	▲62.6	▲70.0	▲67.1	▲72.7	▲61.4	▲54.2 (▲60.6)
建設	▲47.3	▲47.0	▲62.5	▲62.5	▲66.6	▲57.1	▲50.0 (▲66.6)
製造	▲58.8	▲57.8	▲70.0	▲64.7	▲72.2	▲63.1	▲52.6 (▲61.1)
卸・小売	▲78.2	▲75.0	▲84.2	▲84.2	▲81.2	▲68.4	▲57.8 (▲62.5)
サービス	▲50.0	▲68.4	▲60.0	▲57.1	▲58.8	▲55.5	▲55.5 (▲41.1)



【従業員について】

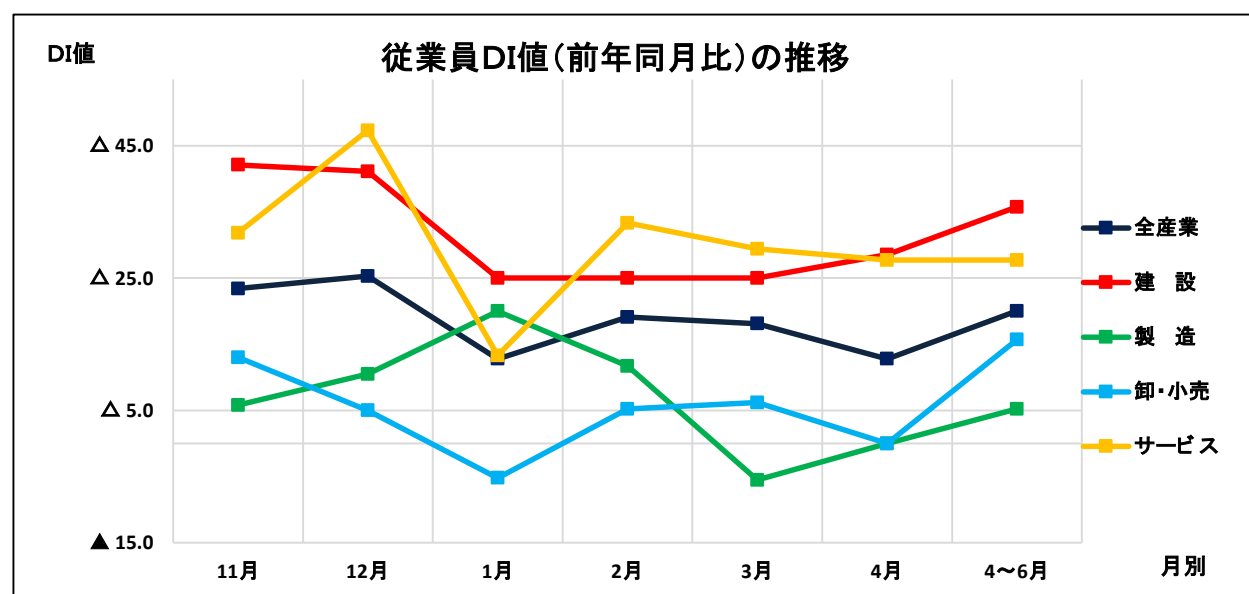
○ 4月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△12.8(前月水準△18.1)となり、プラス幅が5.3ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、△20.0(前月水準△18.1)となり、プラス幅が1.9ポイント拡大する見通しである。



従業員D I値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和6年 11月	12月	令和7年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し	
							4~6月	(4~6月)
全産業	△23.4	△25.3	△12.8	△19.1	△18.1	△12.8	△20.0	(△18.1)
建設	△42.1	△41.1	△25.0	△25.0	△25.0	△28.5	△35.7	(△40.0)
製造	△5.8	△10.5	△20.0	△11.7	▲5.5	±0.0	△5.2	(±0.0)
卸・小売	△13.0	△5.0	▲5.2	△5.2	△6.2	±0.0	△15.7	(±0.0)
サービス	△31.8	△47.3	△13.3	△33.3	△29.4	△27.7	△27.7	(△29.4)

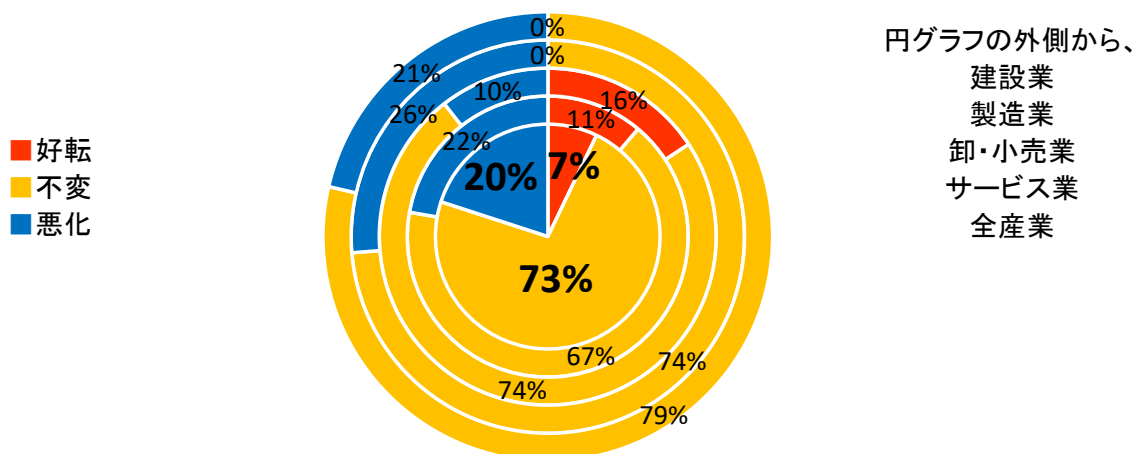


【資金繰りについて】

○ 4月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.8(前月水準▲15.1)となり、マイナス幅が2.3ポイント縮小した。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲4.2(前月水準▲10.6)となり、マイナス幅が6.4ポイント縮小する見通しである。

前年同月と比較した今月の資金繰りについて



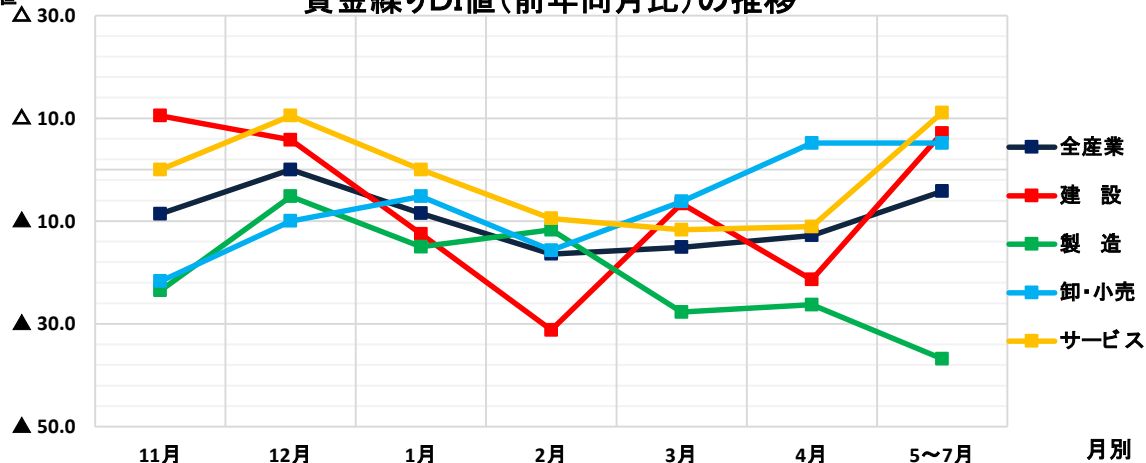
資金繰りD I値(前年同月比)の推移

※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和6年 11月	12月	令和7年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月 (4~6月)
全産業	▲8.6	±0.0	▲8.5	▲16.4	▲15.1	▲12.8	▲4.2 (▲10.6)
建設	△10.5	△5.8	▲12.5	▲31.2	▲6.6	▲21.4	△7.1 (▲6.6)
製造	▲23.5	▲5.2	▲15.0	▲11.7	▲27.7	▲26.3	▲36.8 (▲16.6)
卸・小売	▲21.7	▲10.0	▲5.2	▲15.7	▲6.2	△5.2	△5.2 (▲6.2)
サービス	±0.0	△10.5	±0.0	▲9.5	▲11.7	▲11.1	△11.1 (▲5.8)

DI値

資金繰りDI値(前年同月比)の推移

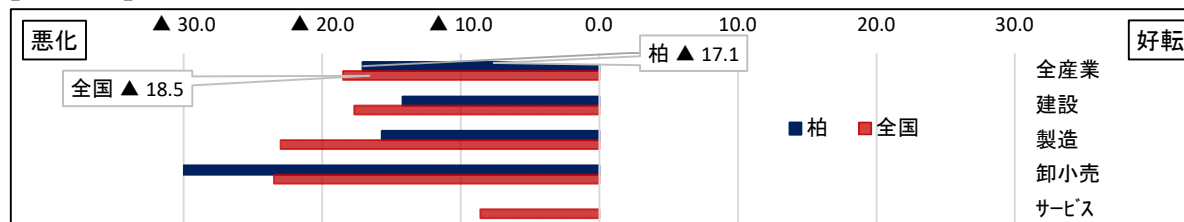


全国（CCI-LOBO）との比較

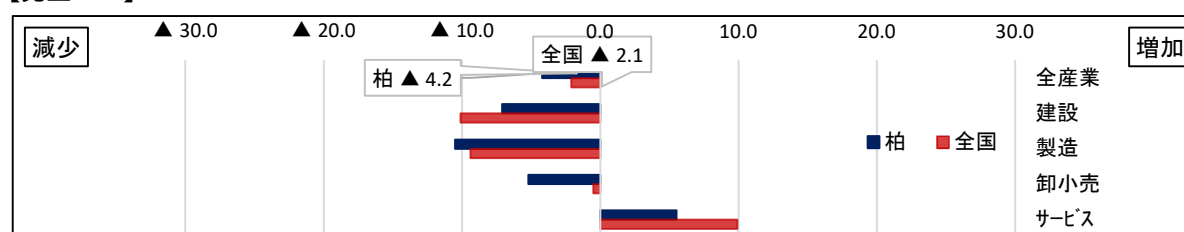
【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

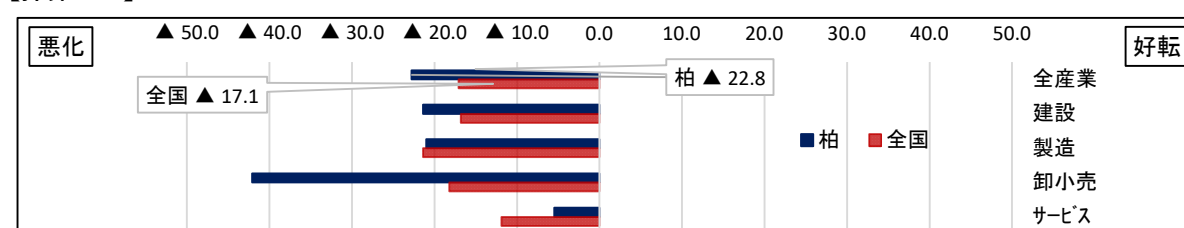
【業況D I】



【売上D I】



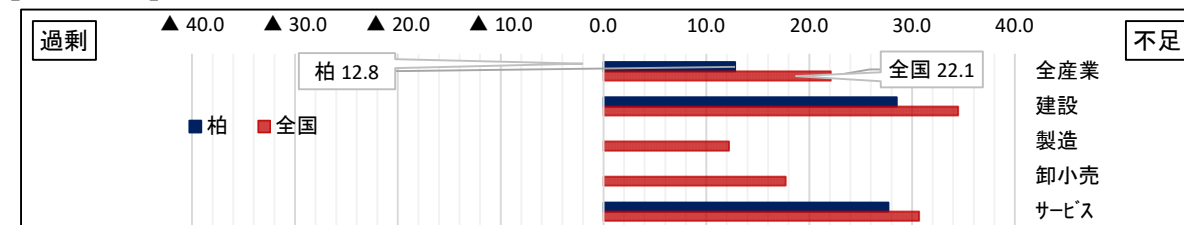
【採算D I】



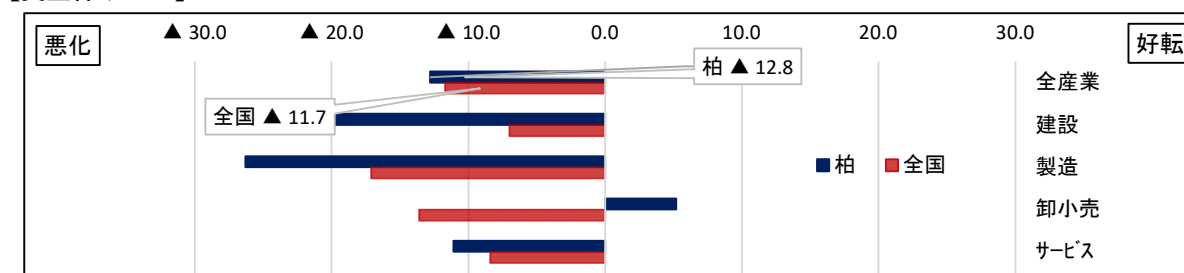
【仕入単価D I】



【従業員D I】



【資金繰りD I】



【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
建設業	全体的に価格を抑えた要望が増えた	一般土木建築工事業
	色々なタイプの働き方を受け入れ、畳職人さんを一人でも多く育てたいです。	畳工事請負・畳製造販売業
	光熱費等の高騰傾向は続いているものの、継続している大型インフラ事業への対応や防災関連事業により、売上高は好転傾向にあるが、物価上昇傾向や人材不足の潜在的マイナス要因が国際情勢の不安定により、今後の不透明感は広がっていることが懸念される。	地質調査・地質コンサルタント
製造業	化粧品容器の受注に相変わらず回復傾向が見られないのと、医療品容器に関してはクライアント海外設備の事情で受注減少が起きてしまった。	プラスチック加工
	今年度前半はかなり仕事が薄い状況。 かなりの部分外部業者を使っていたところを社内に取り込み対応予定	その他の機械・同部品製造業
	世界経済の混乱、経営の在り方変革期なのかもしれないが、現在維持していくだけで精一杯。	印刷業
	トランプ関税については、弊社は直接の輸出入を行っていないので、直ぐに影響が出るとは思えないが、国内全体の景気が悪くなれば、何らかの影響が出てくると思う。特に問屋を通しての仕入先だが、カーメーカーや大手の自動車部品メーカー等の業績に大きな影響が出た場合には、仕入れ価格やデリバリー等に何らかの影響が出ると思う。	自動車・同附属品製造業
	家格転嫁が難しい	油脂加工造業
	新卒社員が計画通りに入社して、現在は教育訓練をおこなっている。	酒類製造業
	売上高は右肩傾向にあるが、人件費、原材料や光熱水費も右肩上がり増なので、利益率は低下 旧建屋の構造的(地震対応)問題があり、建替えが必須となる	その他の鉄鋼業
	物価高、人手不足を踏まえできる限りの賃上げを行った。協力会社も同じ傾向で、加工費が値上げ基調にある。 半年前から人材募集を進めているが、そもそもの人手不足と他社との競争が厳しく、採用に至らない。 取扱製品も海外の競合他社の品質が向上し、かつ低コストであるため、差別化できる高付加価値製品の提案ができるように取り組みたい。	その他の化学工業
	若手の入職により業務の教育に加えて社会人としての教育も発生。それぞれの常識の微妙な違いがある。採用が難しいことを考えると大切に育てたい。	金属製品
卸・小売	昨年春を上回る値上り要請の中、一点単価と客数は上昇しているが、買い控えが更に強くなり売上は頭打ち。 食品や紙消耗・薬は堅調であるが、衣料と住居余暇の落ち込みが激しい。 マスコミでは気温上昇を伝えているが、桜の頃に思ったほど気温は上がりずシーズン品の動きが遅れている。 冬物の処分は順調に進み季節変わりの売場展開を早めてみても動きは鈍い。 今後はネットスーパーを強化して売上をカバーする	大型小売店

【業種別】 業界内トピックス

業	* 人手不足のため、営業時間の短縮・定休日の導入等の店舗が増加。	その他の各種商品小売業
サービス業	東口の建て替えなどと言う風評によりテナントの募集に影響が多大にあります。	不動産賃貸業
	設備の更新や修繕が必要だが数年前とは比較にならない見積もり価格となっている。猶更のこと急いで実施したいが価格にどこまで転嫁できるか不安。設備の更新に対しても補助金等の支援が欲しいところ。	ゴルフ練習場
	収益物件の維持コストも上昇しているので、更新時賃料改定を、ご入居者の方にお願ひする場合が増えてきました。	不動産賃貸・管理業
	お客様からの引き合いはわずつつですが、増えています。相変わらず建築費や資材の値上がりは続いています。金利も上がってきていますので、不動産の買い客も様子見で契約には結びついてはいません。	不動産管理業
	都内の大手学習塾が柏市内に複数店舗出店したため、新年度に予定していた授業料等の値上げができなかった。2年前から続いている人件費、教材費、光熱費分などが価格転嫁できなかったのはかなり痛い。	学習塾

調査要領

回答期間

令和7年4月21日 ～ 令和7年5月7日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	70	40.5%
建設	38	14	36.8%
製造	44	19	43.2%
卸・小売	46	19	41.3%
サービス	45	18	40.0%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI = （増加・好転などの回答割合） - （減少・悪化などの回答割合）

※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調 	好調 	まあまあ 	不振 	極めて不振 